第１章　平成２年度山口大学構内遺跡調査の概要

山口大学の関連諸施設は、山口（吉田・亀山構内）・宇部（小串・常盤構内）・光（光構内）の県内各市に分散している。各構内には、縄文時代後・晩期から江戸時代にかけての複合集落遺跡として著名な吉田構内をはじめとして、旧石器時代のまとまった遺物が出土する小串構内など周知の遺跡が埋存している。山口大学埋蔵文化財資料館は学内共同利用施設として、これら各構内において現状変更を伴う諸工事に対し、埋蔵文化財保護の立場から調査・研究を行っている。埋蔵文化財の調査を必要とする場合は、工事地域周辺における既往の調査結果や工事の内容、埋蔵文化財に対する影響の度合等を勘案し、埋蔵文化財資料館運営委員会の議を経て、事前・試掘・立会の三種の調査方法によって調査を実施している。

平成２年度は下記のように、事前調査２件、試掘調査２件、立会調査７件の計11件の調査を実施した。

Tab. 1　平成２年度山口大学構内遺跡調査一覧表

調査区分	調査名	構内地区	構内地区割	調査面積(㎡)	調査期間	挿図番号
事前	教育学部附属山口中学校汚水排水管布設	亀山構内		70	８月１日～９月28日	Fig. 101—12
	教育学部附属光小学校運動場改修	光構内		23	11月１日～11月15日	Fig. 102— 9
試掘	教育学部附属光小学校運動場改修	光構内		15	７月５日～７月19日	Fig. 102— 8
	医学部附属病院動物・ＲＩ実験棟新営	小串構内		40	11月19日～11月30日	Fig. 98—20
立会	教育学部附属山口中学校汚水排水管布設	亀山構内		130	11月４日～12月29日	Fig. 101—13
	大学会館前庭部環境整備	吉田構内	M—15	2	２月18日	Fig. 97—118
	第一学生食堂設備改修	吉田構内	J—19・20	7	２月20日	Fig. 97—119
	人文・理学部７号職員宿舎公共下水道切替			1.2	２月26日 ３月５日	
	教育学部附属養護学校案内板設置	吉田構内	E—20	1	３月18日	Fig. 97—120
	経済学部３号職員宿舎公共下水道切替			1	３月25日	
	工学部ガス管改修	常盤構内		45	３月27日	Fig. 90— 9

吉田構内の調査(本部、人文・教育・経済・理・農の各学部、教養部：山口市大字吉田1677-1、教育学部附属養護学校：同吉田3003所在)

３件の立会調査を実施した。

構内のほぼ中央部で実施した、大学会館前庭部環境整備に伴う立会調査では、試掘調査時に検出した縄文～室町時代の遺物包含層と同一層を確認したが、調査面積が狭小なため遺物は出土しなかった。また、包含層の下位には地山を検出したが、遺構は確認できなかった。構内の南西部で実施した、教育学部附属養護学校案内板設置に伴う立会調査では、遺構は検出できなかったが、青灰色砂質粘土の地山を確認し、周辺地域とは異なるグライ化した地山の堆積がみられた。なお、構内の南端部付近で実施した、第一学生食堂設備改修に伴う調査では、顕著な遺構・遺物は確認できなかった。

Fig. 1　山口大学吉田・亀山両キャンパス位置図

小串構内の調査(医学部、同附属病院、医療技術短期大学部:宇部市大字小串1144所在)

構内の南西部で医学部附属病院動物・ＲＩ実験棟新営に伴い試掘調査を実施したが、旧石器時代の所産と考えられる蛇紋岩製の縦長剝片が１点出土したにとどまった。調査区の北東に位置する病棟敷地で検出された、ナイフ形石器・削器・二次加工のある剝片・使用痕のある剝片など、比較的まとまった旧石器時代の遺物を包含する堆積層は構内造成による客土中に存在し、今回の調査地域には堆積していないことも確認された。しかし、旧石器時代の遺物を包含する堆積層は、確実に構内の南西部にも分布範囲をもつことが明かとなった。

常盤構内の調査（工学部：宇部市常盤台2557、尾山宿舎：同上野中所在）

構内の南西部で、ガス管の埋設に伴い立会調査を実施したが、造成による構内の削平が著しく、顕著な遺構・遺物は認められなかった。

亀山構内の調査（教育学部附属幼稚園：山口市白石三丁目1-2、同山口小学校：同三丁目1-1所在）

山口中学校敷地で汚水排水管付設に伴い、事前調査、立会調査各１件の計２件の調査を実施した。事前調査は、試掘調査の結果を受けて、遺物包含層が分布している南西部の校舎周辺の路線について行った。遺構は校舎西側の昇降口付近で溝状遺構を検出したが、出土遺物がほとんどなく、また、残存状態も極めて悪いため、規模、流路方向、時期など不明な点が多い。遺物包含層は主に校舎の南西部に堆積しており、数層に分層される。主体となる時期は庄内併行期で、壺・甕・鉢・高坏・器台・手捏土器などの土器類のほか、粗製扁平打製石斧、剝片などがまとまって出土した。出土遺物には在地系、山陰系、畿内系など種々の系譜の土器類が含まれており、外来系要素の組成、流入経路、展開過程を明らかにする良好な資料となった。また、最下層の包含層は縄文時代晩期末の単純層であることもあらためて確認できた。なお、遺物包含層は校舎の反対側でも検出されたが、室町時代の遺物が若干出土したにすぎない。立会調査では、北西端部に位置するプール東側で遺物包含層を検出し、同じく庄内併行期の土器が多量に出土した。庄内併行期の遺物包含層は構内の西端部の谷状の落ち込みに厚く堆積していることが確認でき、分布範囲はさらに西側に広がるものと推察された。

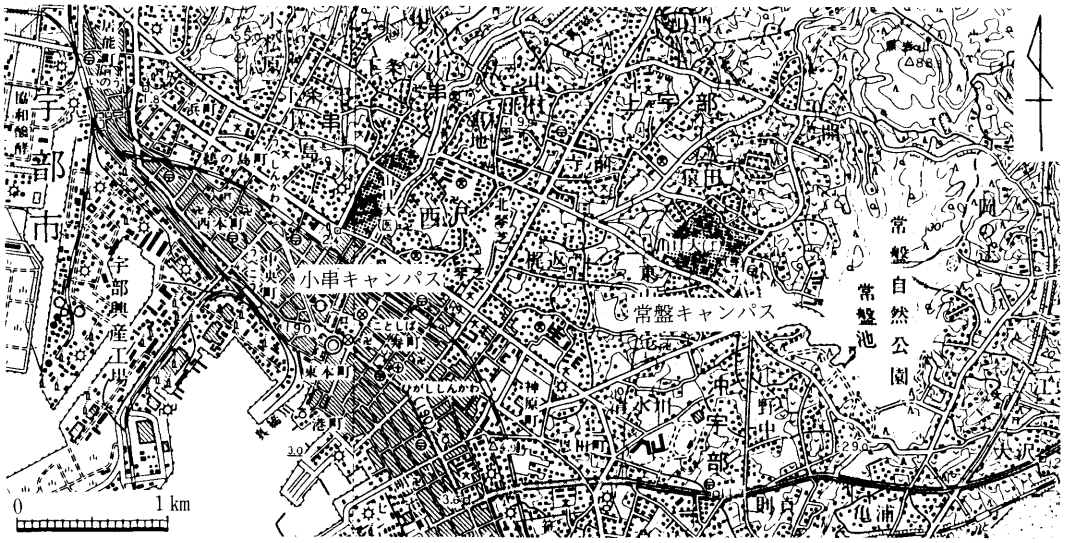

Fig. 2　山口大学小串・常盤両キャンパス位置図

光構内の調査（教育学部附属光小学校、同光中学校：光市大字室積浦1－１所在）

「御手洗遺跡」として周知されている地域で、光構内の西半部に位置する小学校の運動場改修に伴い調査を実施した。試掘調査では、運動場の北・東両縁に設定した４ヶ所のトレンチで、縄文時代晩期後半～室町時代の遺物包含層を検出した。遺物包含層は数層におよぶが、大半が同一層に大きく時期の隔たる遺物が混在しており、一括性に乏しいものであった。しかし、運動場の東縁南端部のトレンチでは５世紀代の遺物包含層が堆積しており、また、遺構の可能性のある落ち込みもあわせて検出したことから、この地域周辺では工事に先だって事前に発掘調査を実施する必要性が生じた。事前調査の結果、これまで19世紀代の遺構しか知られていなかった光構内で、古墳時代に遡る土壙５基を検出した。遺構面は上下二層あり、下層の土壙が切り合い関係にあることから、６世紀末～７世紀初頭、および６世紀代二時期の少なくとも三時期の土壙が存在することが明かになるとともに、出土遺物中に占める丹塗りの土器の多さが注目された。集落関連遺構の検出は、峨嵋山の北麓縁辺部に立地する光構内の南半部を中心に、６～７世紀代の集落が存在することを示唆する資料となった。

その他構内の調査

山口市石観音町1－25に所在する人文･理学部職員宿舎、および山口市香山町3－1に所在する経済学部職員宿舎において、公共下水道切替に伴い立会調査を実施した。

人文・理学部職員宿舎では地山を検出したが、顕著な遺構は確認できなかった。遺物には整地土から出土した近～現代の陶磁器類がある。経済学部職員宿舎では、安定した黄褐色粘質土の地山を検出したが、遺構は確認できなかった。調査地域周辺では遺跡は全く周知されておらず、埋蔵文化財の空白地となっているが、一の坂川の下流に近い右岸の低丘陵上に立地していることから、今後、遺構が検出される可能性も否定できない。

Fig. 3　山口大学光キャンパス位置図

Fig. 98　山口大学吉田構内地区割および調査区位置図

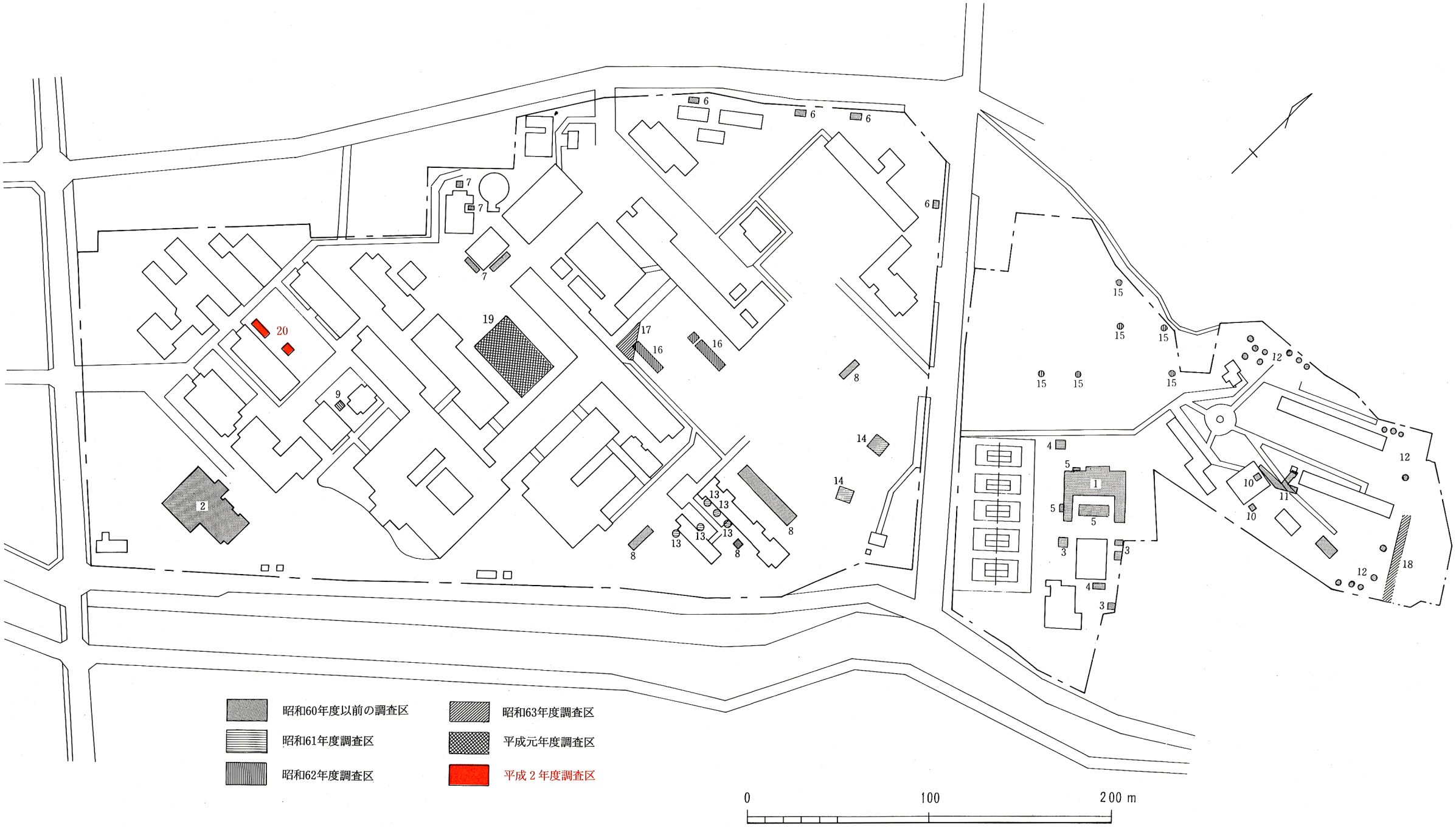

Fig. 99　山口大学小串構内調査区位置図

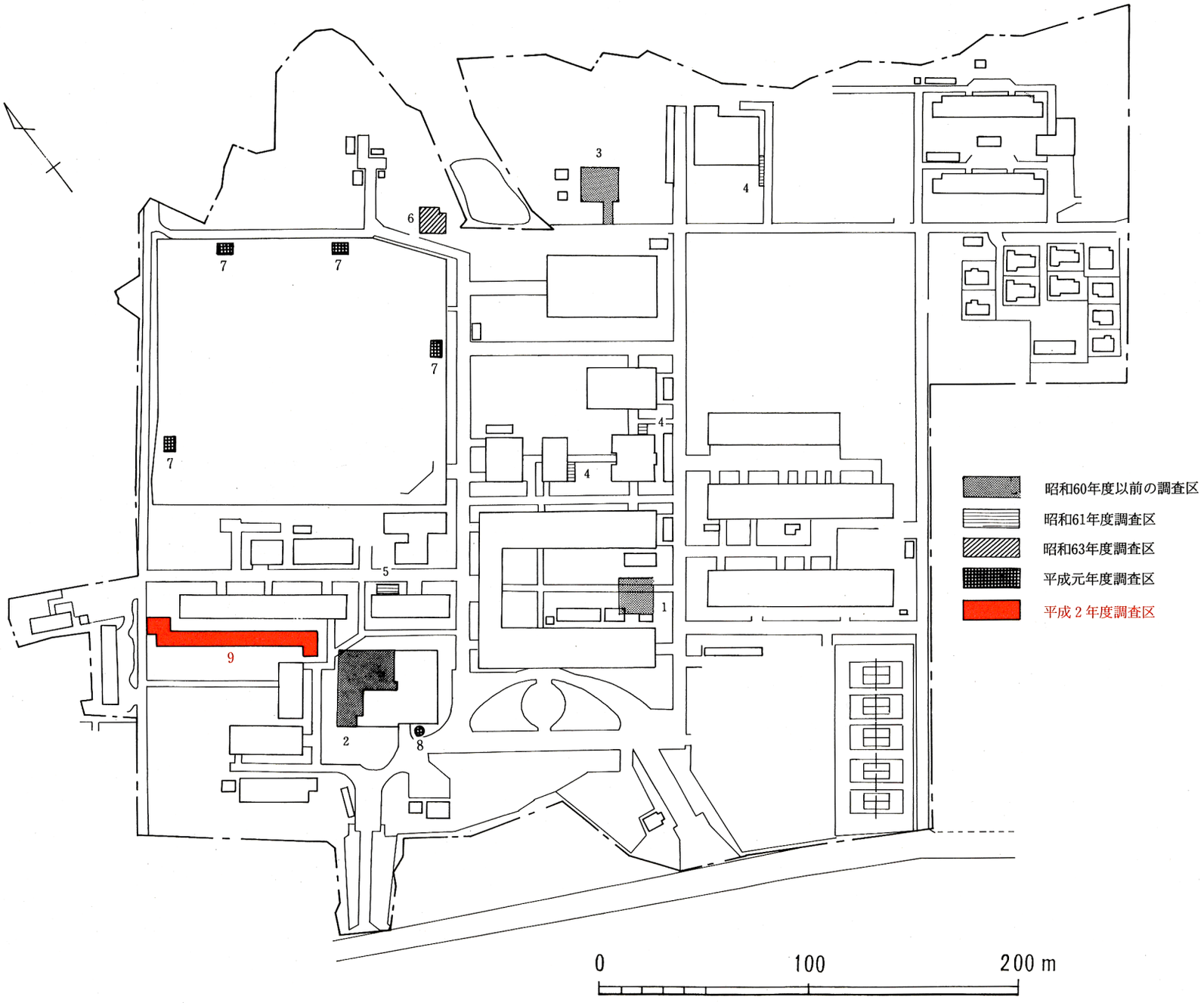

Fig. 100　山口大学常盤構内調査区位置図

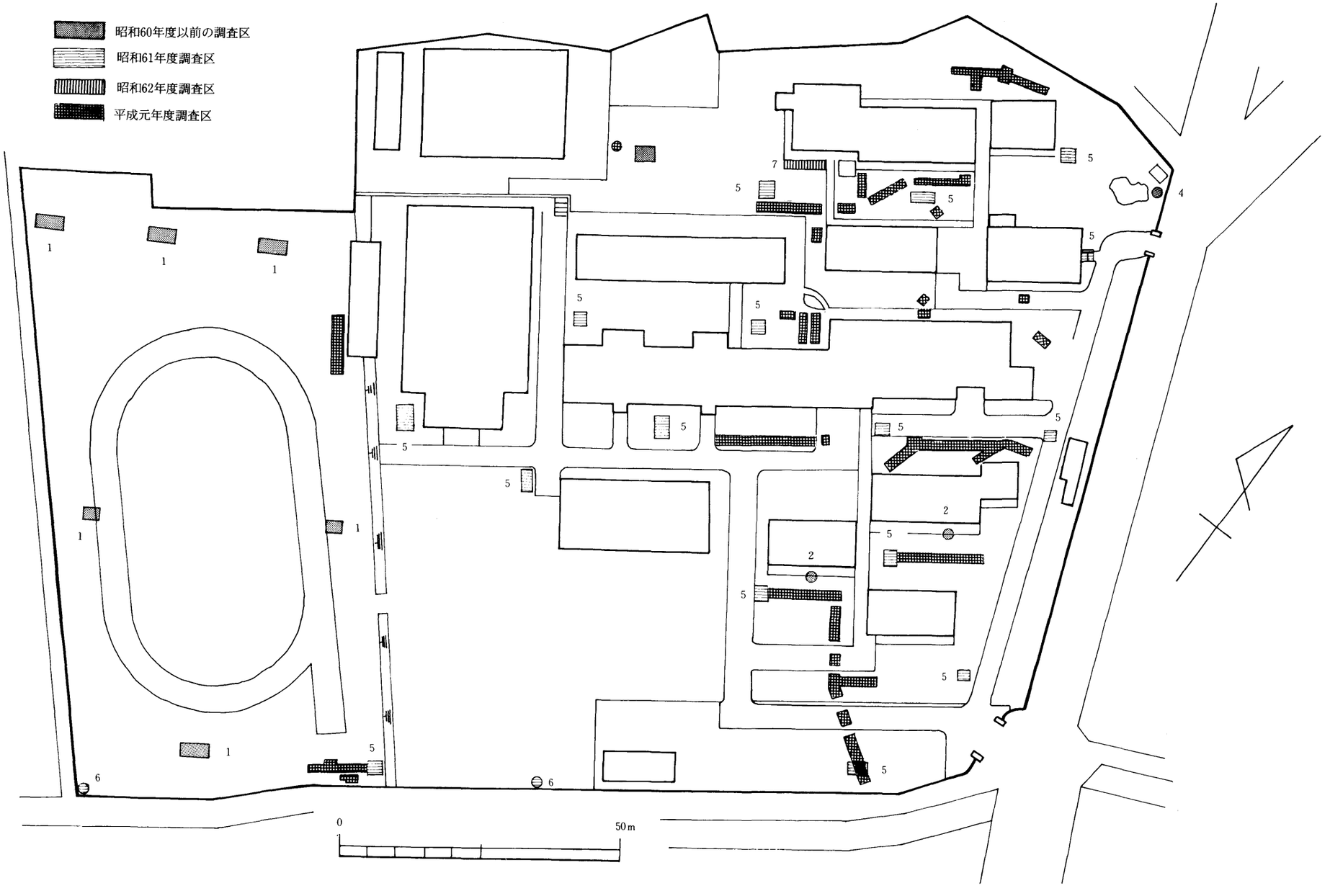

Fig. 101　山口大学亀山構内（幼稚園・小学校）調査区位置図

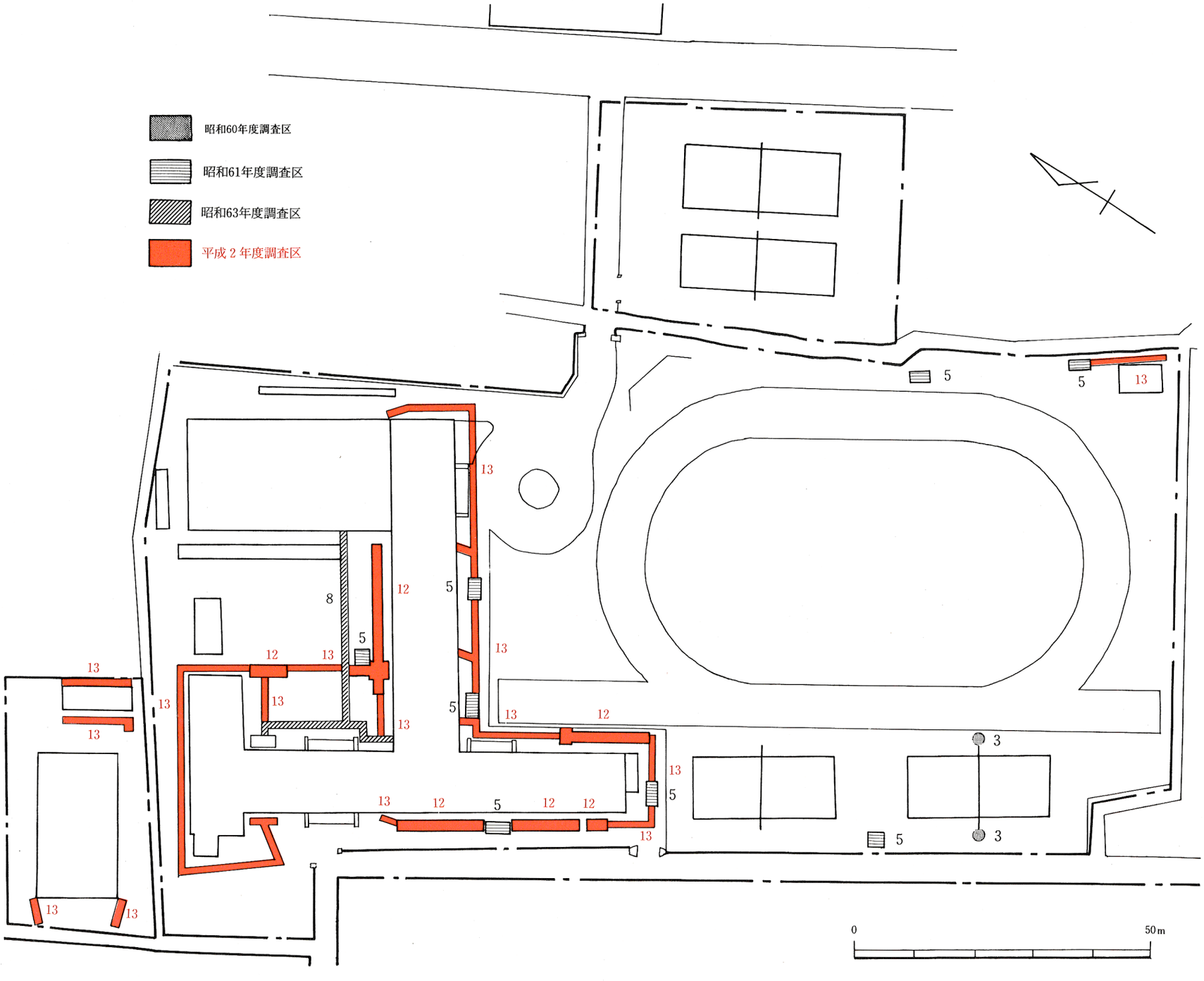

Fig. 102　山口大学亀山構内（中学校）調査区位置図

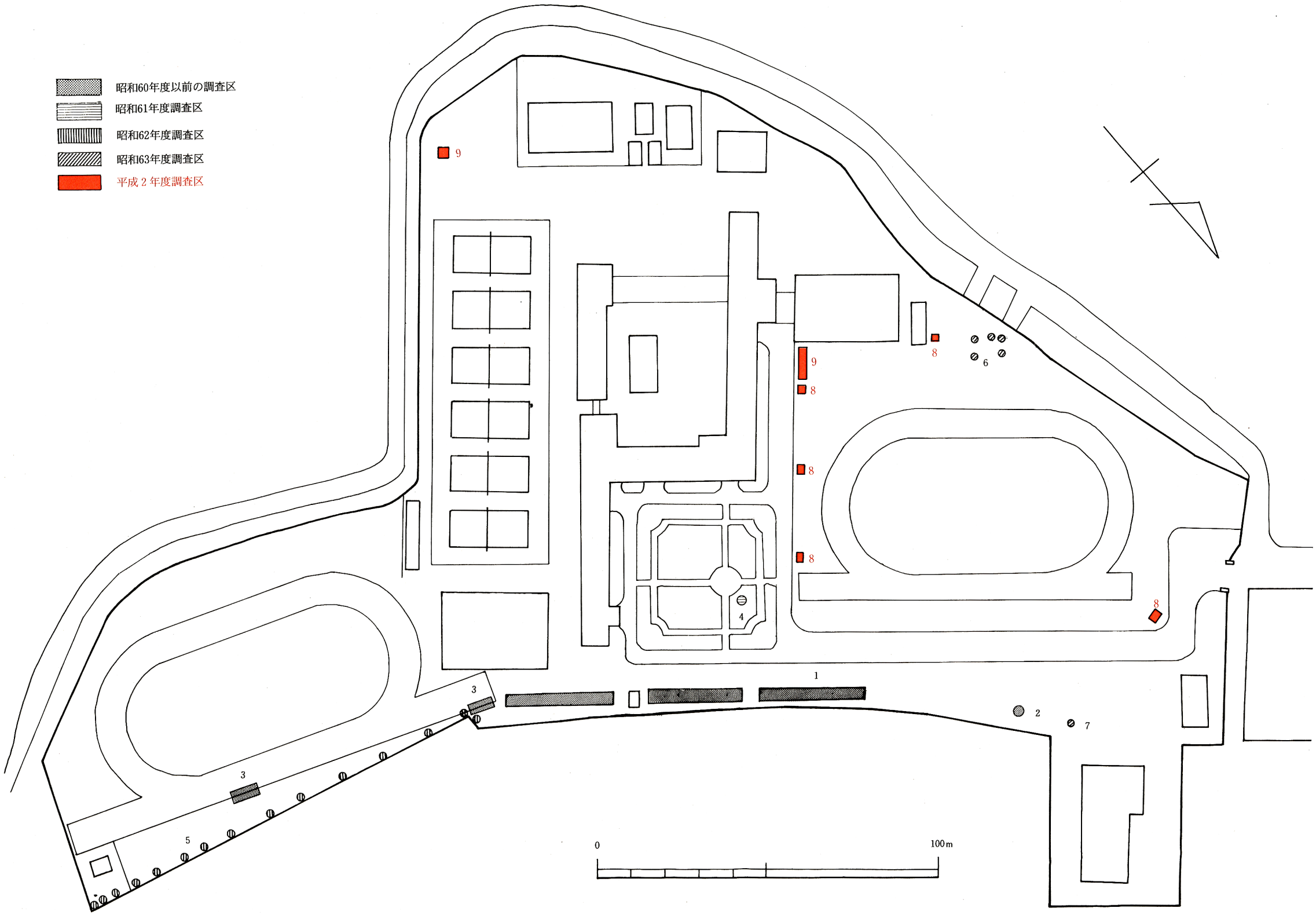

Fig. 103　山口大学光構内調査区位置図